

在来種サツマイモ「なんたん蜜姫」のマルチ栽培技術

～収量がアップして早期収穫が可能に！～

1. はじめに

本県串本町には、‘さいばん’と呼ばれる皮色が褐紅色で肉色が淡黄、肉質が粘質の在来種サツマイモがあり、「なんたん蜜姫」と商品名をつけ、ブランド化に向けた取り組みが行われている。しかし、これまで自家消費用として栽培されてきたため、適正な栽培方法が明らかでなく、生産拡大に向けた、早期収穫および増収技術が求められている。

そこで、栽培時のマルチ被覆と生育期間が収量、品質に及ぼす影響を検討した。

2. 材料および方法

試験区はマルチ被覆の有無と生育期間（収穫日）を組み合わせた8試験区を設定した（表1）。

表1 試験区の構成

| マルチ被覆 | 生育期間（収穫日） |
|-------|-------------|
| マルチ区 | 3ヵ月（8/15） |
| | 4ヵ月（9/15） |
| 無マルチ区 | 4.5ヵ月（9/30） |
| | 5ヵ月（10/14） |

マルチは黒色ポリマルチ（厚さ0.03mm、幅95cm）を使用し、5月16日に蔓長が30cmで葉数が7～8枚の苗を定植した。栽植密度は畝幅100cm、株間30cmの1条植え（333本/a）とした。施肥は全量基肥とし、N:P₂O₅:K₂O=0.35:1.01:1.30kg/aを施用した。調査は1区5株の2反復で行った。

表2 マルチの有無および生育期間と階級別収量、上いも収穫数および平均重

| マルチの有無 | 生育期間 | 階級別収量(kg/a) | | | 規格外収量 | 総収量 | 上いも収穫数(個/株) | 上いも平均重(g/個) |
|--------|-------|-------------|----------|-----|-------|-----|-------------|-------------|
| | | 上いも収量 | | | | | | |
| | | 150g以上 | 100～149g | 計 | | | | |
| マルチ区 | 3ヵ月 | 130 | 76 | 206 | 118 | 324 | 3.8 | 163 |
| | 4ヵ月 | 410 | 92 | 502 | 82 | 584 | 6.8 | 222 |
| | 4.5ヵ月 | 690 | 58 | 748 | 65 | 813 | 7.6 | 295 |
| | 5ヵ月 | 870 | 65 | 935 | 58 | 993 | 9.7 | 289 |
| | 3ヵ月 | 72 | 44 | 116 | 90 | 206 | 2.0 | 174 |
| 無マルチ区 | 4ヵ月 | 179 | 43 | 222 | 95 | 317 | 3.5 | 190 |
| | 4.5ヵ月 | 243 | 71 | 314 | 87 | 401 | 4.9 | 192 |
| | 5ヵ月 | 343 | 86 | 429 | 76 | 505 | 6.2 | 208 |

注)定植日:5月16日。採植密度:333本/a。規格外収量は100g未満のいもおよび著しい変形があるいも。総収量は上いも収量と規格外収量の合計。

3. 結果

- 1) 上いも（100～149g、150g以上）収量、総収量は、マルチ区が無マルチ区に比べて多く、また、生育期間が長いほど多かった（表2）。
- 2) 上いも収穫数は、マルチ区が無マルチ区に比べて多く、また、生育期間が長いほど多かった（表2）。
- 3) 上いも平均重は、生育期間が4ヵ月以上で、マルチ区が無マルチ区に比べて重くなった。また、生育期間が長いほど重くなる傾向が認められた（表2）。
- 4) マルチ区の生育期間4ヵ月の階級別収量、上いも収穫数および平均重は、無マルチ区の生育期間5ヵ月と、同等以上であった（表2）。
- 5) 収穫直後の糖度は、いずれの生育期間も、マルチ区が無マルチ区に比べて同程度かやや高くなる傾向が認められた（データ省略）。

4. おわりに

サツマイモ「なんたん蜜姫」栽培ではマルチ被覆により、いもの収穫個数および平均重が増え、収量が増加することが明らかとなった。それにより、マルチ被覆の生育期間4ヵ月で、被覆無しの生育期間5ヵ月と同等以上の収量が得られ、1ヵ月以上の早期収穫が可能と考えられた。

今後は、現地と連携し、収量、品質および作業性を評価し、導入を進めていく。

（栽培部 田中寿弥）